

入選

雪かき

福井県 神明小学校 5年 杉本 鴻喜

今年2月、ぼくたちの町にたくさんの雪がつもりました。37年ぶりの大雪だったようです。ぼくの身長をはるかにこえて、雪はどんどんつもりました。この大雪でとつぜん学校が休みになりました。宿題も出ず、ずっとずっと休みになりました。外はまっ暗でとても不安な気持ちになりました。テレビのニュースでは、車が雪で動けなくなったことや、お店に商品がないこと、電車やバスが止まっていることが毎日やっていて、ぼくたちの町はこれからどうなってしまうのだろう、と思いました。

そんなときお母さんは、朝から仕事に行かなければならなくなりました。ぼくは弟と、お母さんの車が仕事に行きやすいように雪かきを手伝いました。雪用の手ぶくろをしていても手に雪がとけた水がしみこんできました。とても冷たかったです。

目の前で近所の人車が雪で動けなくなりました。タイヤが大きな音を立てて、空回りをしていました。お母さんとぼくと弟は、スコップを持って近所の人車にかけより、タイヤのまわりの雪を取りのぞいてあげました。バンパーの下の雪も取りのぞいてあげました。それでもまったく車は動けませんでした。すると、ほかの近所の人も集まってきてくれました。みんなでもう一度車のまわりの雪かきをして、そして車を後ろからおしてあげました。

車はやっとで雪からぬけ出し、近所の方は、

「ありがとうございます。」

と言って出かけていきました。その後お母さんは仕事に行きました。ぼくと弟が見送ったあと、お母さんの車も雪にタイヤが埋まってしまい、近所の人に車をおしてもらったそうです。お母さんと入れかわりで、ぼくたちの世話に来てくれたおばあちゃんの車も、やはりぼくの前で雪にうまってしまいました。近所の人や近くにいた人が、タイヤのまわりの雪かきを手伝ってくれたり、車をおしてくれたりして、雪から抜け出すことができました。

ぼくとお母さんと弟は、時間を見つけて近所の歩道の雪かきをしました。いつ学校が始まってもいいように、通学路を中心に雪かきをしました。特に、学校へ行くためにわたる大きな横断歩道が雪に埋まってしまっていたので、ぼくたちは一生けん命に雪かきをしました。通学路の雪かきをしながら進んでいくと、ぼくらのほかにも雪かきがされていることがわかりました。

とてもとてもたくさん雪がふり、どうなってしまうんだろうと思っていましたが、みんなに助けってもらって、ぼくらもできることをやって、大雪をのりきることができました。いつのまにかに歩道や通学路が通りやすいようにつながり、安全に学校へ行き帰りすることができたのは、みんなの親切心のおかげだと思います。雪のときだけではなく、ほかのことでも手助けして人の役に立ちたいと思いました。